

令和7年度 地域懇談会

～市長と語る会～

意見 及び 回答

令和7年(2025年) 10月

瑞浪市

目 次

地区名	No.	タイトル（テーマ、意見等）	ページ	担当課
土岐	1	東濃中部医療センターへのアクセスについて	1	健康づくり課
	2	瑞浪北中学校のスクールバスについて	2	教育総務課
	3	災害対応について	3	危機管理課
	4	瑞浪駅北の再開発・総合文化センターの跡地利用について	4	シティプロジェクト推進課 生涯学習課
稲津	1	県道瑞浪大野瀬線の道路改良工事について	5	土木課
	2	稲津地域子育て支援センターの移転と後利用について	6	こども家庭課 総務課
	3	稲津公民館のWi-Fi増設について	7	企画政策課
	4	東濃厚生病院の後利用について	8	健康づくり課
釜戸	1	消防団に対する資格取得支援について	9	消防本部
	1-2	消防団に対する資格取得支援について②	10	消防本部
	2	民間施設の跡地活用について	11	市民協働課
	3	産業廃棄物処理施設について	12	環境課
	3-2	産業廃棄物処理施設について②	13	環境課
	4	子育て支援について	14	こども家庭課
	5	リニア中央新幹線について	15	企画政策課
瑞浪	1	東濃中部医療センター開院後の現東濃厚生病院の後利用について	16	健康づくり課
	2	駅周辺の再開発におけるスケジュールと周辺への影響などについて	17	シティプロジェクト推進課
	3	人口問題について	18	企画政策課 総務課
	4	子育て支援の補助金について	19	こども家庭課
大湫	1	公共交通の確保や大湫宿の観光施設などの対策について	20	商工観光課
	1-2	琵琶峠公衆トイレの汲み取りについて	21	商工観光課
	1-3	丸森での飲食について	22	商工観光課
	2	山火事などの防災対策について	23	消防本部
	3	公立東濃中部医療センターへのアクセスについて	24	健康づくり課
	4	リニア中央新幹線について	25	企画政策課
	5	市道割山1号線、市道割山2号線の補修について	26	土木課
明世	1	自治会離れについて	27	市民協働課
	2	超深地層研究所について	28	企画政策課 都市計画課
	3	人口減少対策について	29	企画政策課
	4	カフェ禁について	30	都市計画課
	5	明世町のコミュニティバスについて	31	商工観光課 学校教育課
	6	健康管理センターについて	32	健康づくり課
日吉	1	若い世帯、移住者が増え、人口減少を緩やかに ※日吉町地域計画2024の目標	33	シティプロモーション課 こども家庭課
	2	日吉スポーツ施設について	34	スポーツ文化課
	3	今後の施設等に関する瑞浪市の考え方について	35	総務課
	4	市道天徳本郷線の草刈り・高木の剪定について	36	土木課
陶	1	空き家空き地バンク制度について	37	シティプロモーション課
	1-2	空き家空き地バンク制度について②	38	シティプロモーション課
	1-3	空き家対策グループへの補助金や伴走支援の内容や方針の明文化について	39	シティプロモーション課
	1-4	空き家調査費等に関する助成金について	40	シティプロモーション課
	1-5	空き家にかかる固定資産税について	41	税務課 都市計画課
	1-6	空き家の家財等の処分にかかる補助金について	42	シティプロモーション課
	2	過疎化対策について	43	商工観光課 農林課 企画政策課
	3	けんこう号と巡回診療車について	44	健康づくり課
	4	「広報みづなみ」の自治会配布について	45	シティプロモーション課
	5	就学援助制度について	46	学校教育課

地区名	土岐地区	番号	1
タイトル	東濃中部医療センターへのアクセスについて		
ご意見の内容			
「2024年秋号 新病院建設だより」に東濃中部医療センターの完成は、令和8年2月となっています。1年以内に開院するので、自力での交通手段がない方へのアクセス方法について、計画が具体的に進んでいるかと思います。 以前の市長と語る会で、シャトルバスが運行されると説明されましたが、具体的な路線・停留所・運行スケジュールを教えてください。			
市長の回答	担当課	健康づくり課	
新病院のアクセスについては、いろいろな説明会場で質問をいただいています。瑞浪市、土岐市、病院を運営するJA岐阜厚生連も、大きな課題として受け止めています。 令和8年2月に開院する公立東濃中部医療センターへのアクセスにつきましては、現東濃厚生病院からのシャトル便を運行する方向で、JA岐阜厚生連と協議を進めています。現東濃厚生病院と新病院の間のシャトル便ですので、途中に停留所を設ける予定はありません。 なお、シャトル便の運行は、JA岐阜厚生連の事業として実施していただく予定です。JA岐阜厚生連はその便数などについて、東濃厚生病院で行ったアンケート調査の結果などをもとにニーズを把握し、検討すると聞いています。 現東濃厚生病院までのアクセスは、引き続き、コミュニティバス、デマンド交通をご利用いただきたいと思います。シャトル便とコミュニティバスとがうまく乗り継ぎできるような運行時間をJA岐阜厚生連と協議を進めており、それぞれ決まりましたら、市とJA岐阜厚生連から周知いたします。			

地区名	土岐地区	番号	2
タイトル	瑞浪北中学校のスクールバスについて		
ご意見の内容			
瑞浪北中学校が開校してから、6年が経過しました。スクールバスは、当初「瑞陵中学校区以外の地区に住む中学生を対象」つまり「釜戸地区、日吉地区の中学生が対象」となっており、現在もその状況が続いています。土岐町は広く、通学に時間のかかる中学生も多いです。土岐町在住の生徒は乗車できる対象にはならないでしょうか。			
市長の回答	担当課	教育総務課	
瑞浪北中学校のスクールバスについては、中学校統合に向けての動きが始まった当初より、「スクールバスは、統合により通学距離が長くなる全ての生徒を対象にする」という方針の下で運行されています。 この方針にのっとり、旧日吉中学校区及び旧釜戸中学校区がスクールバス通学の対象となり、旧瑞陵中学校区は徒歩または自転車での通学としています。 また、旧瑞陵中学校区の遠距離通学者については、従来どおり、瑞浪市通学費助成金交付規則の規定により、助成金を支給しています。 ご質問の土岐町在住の生徒をスクールバスに乗車させることについては、現段階では考えておりません。			

地区名	土岐地区	番号	3
タイトル	災害対応について		
ご意見の内容			
土岐地区は、東西南北に広く、水害が心配される地域、土砂災害が心配される地域と被災要因も多様で地区として統一的な対応が難しい状況です。また、災害時の指定避難所が浸水想定区域や土砂災害警戒区域内にある場所も多く、避難時は混乱が想定されます。土岐地区の災害対策はどのように進めていくべきか苦慮しています。アドバイスをいただけたらと思います。			
市長の回答	担当課	危機管理課	
土岐地区は、その広い範囲の中に土砂災害警戒区域や土岐川による浸水想定区域が点在し、避難所も洪水時には利用できない施設や洪水の危険性は無いものの、土砂災害の危険性があるなど、災害によって利用が制限される施設があります。これらのことから、土岐地区全体として対策を考えるだけではなく、各自治会単位や地形的にまとまった集落、または個人で危険な箇所を確認していただくことも大事になります。まずはハザードマップ等で自宅は安全か、近くの集会所や公民館は安全か、を確認していただき、危険がある場合はどこへ避難するのか、避難所への道に危険性は無いのかといったことを確認していただきたいと思います。その上で、例えば避難所への道に土砂崩れの危険がある場合は、早めに避難を行うといったような対策を考えていただければと思います。これについては、地区ごとだけではなく、家庭ごとにもぜひご確認いただき、まずは「自助」の備えをお願いします。 市では地域の防災意識を高め、団結力を強化し、防災力の向上を図ることを目的として、区や組などの単位を対象に、地域の要望や実情を踏まえた内容で防災訓練の実施支援をしています。班などの少人数でも申込は可能ですので、防災訓練の実施についてご検討いただき、実施する場合は市役所危機管理課まで申込をお願いします。地域に応じた防災訓練の提案やお手伝いをさせていただきます。また、市内で約300名の防災士の資格を持った方がいます。土岐地区でも約40名が資格を取得しています。災害時の初期対応は地域の方たちに行ってもらわなければなりませんので、防災士を含め地域の方たちで「共助」しながら対応していただきたいと思います。			

地区名	土岐地区	番号	4
タイトル	瑞浪駅北の再開発・総合文化センターの跡地利用について		
ご意見の内容			
瑞浪駅北再開発と総合文化センターの跡地利用について、状況や利用方法を教えてください。			
市長の回答	担当課	シティプロジェクト推進課 生涯学習課	
瑞浪駅北側は市が所有している土地(駅北駐車場等)になります。駅北の再開発は、市が主体となって複合型の公共施設を建設する計画です。現在、用地買収を行っており、約2.2ヘクタールの規模で再開発を進め、大きな施設としては、複合公共施設を建設予定です。また、約450台駐車できる駅北駐車場を整備し、必要駐車台数を確保します。さらに駅北ロータリーを拡張し、瑞浪駅の北側改札口を開設する協議をJR東海と進めており、駅へのアクセスを向上させる予定です。 複合公共施設は、現在の総合文化センターを運用しつつ建設する予定です。そのため、盛んに行っていた文化芸術活動を止めることなく、また、図書館についても極力休館せずに、機能移転ができる予定です。 今年度には、複合公共施設の運営事業者、設計事業者をプロポーザル形式で決定する予定で、令和9年着工、令和10年完成を目指しています。 総合文化センターの跡地利用につきましては、現在白紙ですので、解体なのか民間譲渡なのか、それとも別の手法があるのか、これから協議していきたいと思います。			

地区名	稲津地区	番号	1
タイトル	県道瑞浪大野瀬線の道路改良工事について		
ご意見の内容			
県道瑞浪大野瀬線については、稲津町小里の下小里地区(下小里交差点から萩原橋までの区間)において、道路拡幅や歩道整備などの道路改良事業が進められています。特に下小里交差点から下小里公民館までの区間は歩道がなく、路側帯も狭いため、通学する小中学生や高校生が危険な状態となっています。つきましては、令和4年度の地域懇談会においてもお答えいただいておりますが、その後の道路改良事業の進捗状況を説明していただき、本事業の早期完了に向けて、地元で取り組める事項などがありましたら併せてご教示いただきたいです。			
市長の回答	担当課	土木課	
県道瑞浪大野瀬線は、岐阜県が管理する主要地方道路となります。 道路の拡幅事業は、岐阜県多治見土木事務所において令和2年度から事業化し、現在、道路詳細設計及び丈量測量を進めていただいております。 この道路は、瑞浪市、恵那市、豊田市を結んでいますが、この3市が一緒になって、毎年、多治見土木事務所、恵那土木事務所、豊田加茂建設事務所へ、道路整備の要望活動を行っています。 ゆっくりではありますが、ご要望いただいた道路改良が進んでおり、約500mの区間の工事を予定しています。 今後も瑞浪市は、事業の更なる推進を図るため岐阜県に要望を続けていきます。住民の皆さまにおかれましては、用地買収や工事の際のご理解、ご協力をお願いします。			

地区名	稲津地区	番号	2
タイトル	稲津地域子育て支援センターの移転と後利用について		
ご意見の内容			
稲津地域子育て支援センター「おんぶにだっこ」については、稲津こども園内への移転が進められており、現在、令和8年からの開所を目指して施設改修が行われています。子育て支援センターが稲津町のほぼ中心部のこども園内に移転し、より充実した施設になることはメリットが多いと考えますが、現在の支援センターについては、より町民のためになる後利用を検討していただきたいと考えています。つきましては、支援センター移転の進捗状況を説明していただき、今後の後利用の見通しについてご教示いただきたいです。			
市長の回答	担当課	こども家庭課 総務課	
稲津地域子育て支援センター「おんぶにだっこ」は、令和8年4月から稲津こども園内に移転し開所するために準備を進めております。 移転先の稲津こども園においては、現在空き教室となっている教室を支援センターとして利用するため、内装等を改修し、また、支援センター来所者が利用する東門の改修を12月までに行います。そして、来年1月から順次引っ越しを進めていく予定です。その間、現在の稲津地域子育て支援センターを一時閉所させていただく予定です。 移転後の後利用についてですが、建物は昭和53年度建築から47年経過しており、これまでに大規模改修等の施設更新を行っておらず、かなり老朽化しています。市で使う予定はなく、後利用については現在白紙です。 もし、稲津町の方々に、後利用で何か事業を行いたい、借りられるならこんな活動を行いたい、といったようなご提案やご要望がありましたら、一度お話を聞かせてください。 また、解体して更地にするのか、現状のままで民間等に移譲し活用できるかを含め、広く活用方法について検討していきたいと考えています。			

地区名	稲津地区	番号	3
タイトル	稲津公民館のWi-Fi増設について		
ご意見の内容			
現在、稲津公民館には、ロビーと和室の前にWi-Fiを設置しています。災害訓練の際、多目的ホールでの接続が悪いと感じました。災害時、一時的に稲津公民館へ避難される方もいる上で、今の時代SNSは欠かせないものになっています。もしできたらWi-Fiの増設をお願いします。			
市長の回答	担当課	企画政策課	
災害時を考えて、空調を整備したところですが、Wi-Fiも同じように大切であると考えています。特に災害時は、スマートフォンを使っての情報収集は欠かせませんので、多目的ホールにWi-Fi機器を増設します。令和8年度での実施を予定しています。			

地区名	稲津地区	番号	4
タイトル	東濃厚生病院の後利用について		
ご意見の内容			
東濃厚生病院の後利用について教えていただきたいです。			
市長の回答	担当課	健康づくり課	
東濃厚生病院の後利用については、JA岐阜厚生連に対して、一次医療機能の継続と、福祉・介護施設等としての活用を要望してきました。この要望をもとに、JA岐阜厚生連と瑞浪市、恵那市による協議会を設置し、協議を進めてきました。 JA岐阜厚生連からは、東濃厚生病院敷地内の南側にある健康管理センターの建物を活用し、一次医療機関として開業医と同等機能の診療所を開設する予定であると聞いていますが、診療所に配置する医師の数や診療科等の詳細は、公立東濃中部医療センターの医師確保の状況によるため、直前まで決まらないとのことです。診療所の開設時期は、東濃厚生病院が令和8年1月に閉院した後、健康管理センターの改装工事を行ってからになるようです。また、この診療所は、入院機能を持たないため、精密検査が必要な場合等は公立東濃中部医療センターへ紹介する流れになります。 病棟のある本館棟については、JA岐阜厚生連が福祉・介護施設等を運営する社会福祉法人等の誘致を進めましたが、話がまとまらなかったことから、建物を有効活用していただける事業者を優先に業種の幅を広げて探した結果、学校法人安達学園が活用することになりました。			

地区名	釜戸地区	番号	1
タイトル	消防団に対する資格取得支援について		
ご意見の内容			
釜戸町では、消防団員が万一に備え、日々訓練を行っていただいておりますが、中には、消防ポンプ自動車の運転ができない消防団員がみえます。「運転ができない」というのにも「免許がない」という理由もありますが、そもそも「こんな大きな車に乗ったことがない」という理由もあります。 万一の際のスムーズな対応ができるよう普通自動車運転免許で乗ることができる消防ポンプ自動車の導入や、資格取得にかかる助成金を検討をしていただきたいと思います。また、自動車運転免許教習所等で大きな車の運転や緊急走行の心得等の研修などをしていただきたいと思います。 (議会ちゃんねるR7.5号の成瀬議員 一般質問と同内容)			
市長の回答	担当課	消防本部	
本市消防団に配備した消防車両のうち、普通自動車免許で運転できない車両は、市内5つの分団に1台ずつ配備した消防ポンプ自動車です。 釜戸町を管轄する第3分団には消防ポンプ自動車を大島消防器具庫に配備していますが、ここを拠点としている分団本部と第2部の所属団員は21名で、その中で消防ポンプ自動車の運転ができない団員は1名となっています。 このことから、直ちにポンプ車の運用が困難となることは想定していません。 しかし、今後法改正後の普通自動車運転免許のみを取得された団員の入団が増加すると考えられますので、普通自動車運転免許で運転できる車両の導入や資格取得に係る助成金制度などの対応を検討していきます。 緊急走行等に係る研修等については、多治見市、土岐市及び瑞浪市の消防団において、東濃西部消防団安全運転講習会を隔年で開催し、警察官から緊急走行に関わる講義や技術指導を受けています。 また、各分団で運転訓練等を実施していただき、災害時の緊急走行に対応できるように努めていきます。			

地区名	釜戸地区	番号	1-2
タイトル	消防団に対する資格取得支援について②		
ご意見の内容			
「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の第9条には、「国及び地方公共団体は、消防団への積極的な加入が促進されるよう、自らの地域は自ら守るという意識の啓発を図るために必要な措置を講ずるものとする。」とあります。現在、消防団に新しく入団する方が少なく、苦慮しております。そんな中でも入ってくれた団員に話を聞くと、「意外に楽しい」「地域貢献して充実している」という声も多く、消防団活動を熱心に続けられています。 つまり、入るきっかけがあれば、続けていただけるので、資格の取得が1つの入り口になれば、とも考えています。ぜひ、市の方でも入団していただける工夫などしていただければ幸いです。			
市長の回答		担当課	消防本部
消防団員の確保は、釜戸町だけでなく全地区で難しくなっています。少子化や市外での就職により、20代30代の人口が減っているのも要因の1つであると考えています。とはいえ、来るべき火事や災害に備えるためにも、消防団員の確保は大変重要です。 市としても、消防団の制度等を見直してきました。報酬の増額や県操法大会(ポンプ車操法)出場を輪番制にするなど、現団員の待遇の向上や負担の軽減を図り、退団者の減少、入団者の増加に取り組んでいます。ご意見の内容はその通りで、消防団の維持をこれからどのようにしていくかは、大きな課題であると感じていますので、引き続き検討していきたいと考えています。			

地区名	釜戸地区	番号	2
タイトル	民間施設の跡地活用について		
ご意見の内容			
釜戸町では、唯一あったコンビニが撤退されたので、買い物が不自由になっています。 地元住民、民間企業、行政が組んでまちづくりにつなげる事例がいくつかあり、釜戸町でも道の駅の「よろずや」運営の前段として、まちづくり拠点として活用していく場合、行政からの支援を得ることはできるのでしょうか。 また、竜吟峡の人气が近年に高まっているとのことで、例えば建物を壊して駐車場を広げたり、建物を活かして商店機能を持たせる等の整備を市にお願いすることはできるのでしょうか。 民間施設の跡地ということは重々承知しておりますが、市としてのご回答をお願いします。			
市長の回答	担当課	市民協働課	
プロが経営して成り立たずに閉店した場所ですので、もし市が引き継いだとしても、採算や維持管理等、かなり厳しいと思います。 釜戸町が空き店舗をまちづくり拠点として活用されることは、地域の課題解消、地域の活性化にとって有効なことだと考えます。休日の竜吟峡利用者が増えてきて、駐車場が足りないこともあると聞いておりますので、土地所有者の方に借りることができるのか、などの相談をしていく必要があると考えています。 駐車場に限らず、事業の実施にあたっては、土地及び建物の所有者の承諾が前提であり、承諾が得られた場合には、まちづくり拠点として、どのような機能を持った施設をどのように運営していくのか、収支を含めた事業プランを策定することが必要です。 まずは釜戸町で構想を固められ、事業プランを策定された後に、市として支援できることを検討させていただきます。			

地区名	釜戸地区	番号	3
タイトル	産業廃棄物処理施設について		
ご意見の内容			
釜戸町に産業廃棄物処理施設ができてから、40年以上経過しています。地元としては、もうこれ以上の最終処分場の建設の中止を強く望みます。 現在の土壌が安心かどうか、下切区のあの周辺の土壌を調べてほしいです。話に聞くと当初は環境基準が甘く、埋設方法も確立していなかったと言われています。 現在、排水を場内で浄化しており、外に出していないと施設会社の社長は断言していますが、下切公民館の対岸、県神川では、泡立った水が流れてきており、汚染を心配しています。 これが、40年以上続いているのです。止水シートを埋めていると言われていますが、土壌に染み出していないのか心配です。当該施設の埋設地層から地面に染み込んだ汚染水と思われる水が畑・田圃等をされている地域に出てきていないか心配です。 現在計画中の施設は、当該施設の約5倍を処理する処分施設と聞いています。現状の土壌を検査して重金属類の汚染がないことを証明してほしいです。 また、県が行っていない堰堤の上部の汚染と処理施設隣接の堰堤下の水質及びPFASの検査を希望します。また中央線線路北側水路敷での地盤調査をお願いしたいです。			
市長の回答	担当課	環境課	
現在、釜戸町内にある産業廃棄物処分場については、地元の方の様々な心配事はこれまでもお伺いしており、市としても地元の皆さんの心配の声をしっかりと受け止め、釜戸町の環境対策委員会などにおいて、情報共有ならびに現地視察に同行しております。 令和5年12月15日に開催された釜戸町区長会において、県が実施する定期的な水質検査において水質に異常がみられないので、土壌調査までは行わないと区長会に対し県から回答がされています。また、市においても、定期的に県神川の水質検査を実施しており、水質に異常はみられないことから、現時点では土壌調査をする予定はありません。 しがしながら、今後予定されている産業廃棄物処分場について心配されるお気持ちは十分理解していますので、土壌調査について、地域での様々なご意見をまとめていただきたいと思います。そのうえで、釜戸町と協調しながら国・県の指導を受け、土壌調査の実施について検討していきたいと考えています。 大切な釜戸の自然を破壊するような施設や事業は、少しでも止めたいという思いは一緒です。地域の皆さんも団結して、例えば地権者が土地を売らないとか、地域において自主的な水質検査を継続して行うなど、引き続き地元の結束、地元の大きな声が必要ではないかと考えています。 具体的には、区長会等の釜戸町のトップの皆さんが集まる会議等で、新しい産業廃棄物処分場ができる前の土壌や水質の基礎データを取るかどうか、を検討していただき、釜戸町の総意としてまとめていただければ、次の段階に進めていけると考えています。			

地区名	釜戸地区	番号	3-2
タイトル	産業廃棄物処理施設について②		
ご意見の内容			
新しくできる産業廃棄物処理施設を釜戸町の最上流部分に巨大な施設を作るという不安があります。漁協からは、生態系に影響が出ているとも聞いています。産業廃棄物処理施設が生活に必要なことは分かっていますが、生態系についても、もちろん、釜戸町にお住いの方々も不安になっていると思います。 3月には、環境対策委員の学識委員として視察に出席しました。産廃事業者は、硫化水素やメタンガスなどの調査もされており、また、これまでどんなものを廃棄してきたか等のデータも取っているとのことで、それらのデータも市民の人が見えるようにしてほしいです。			
市長の回答	担当課	環境課	
新たに産業廃棄物処理施設が建設されるということで、業者さんは、県の指導を受けながら、準備を進められており、すでに用地はすべて買収されています。県としても、条件が全て揃っているため、建設の取りやめは難しいのが現状です。 市としては、最終決定するまで市民の皆さんの意見を聞きながら、県や業者に伝えていきたいと考えています。			

地区名	釜戸地区	番号	4
タイトル	子育て支援について		
ご意見の内容			
現在釜戸小学校の全校生徒は68名で、そのうち41名が学童クラブに登録しており、常時22名ほどが利用されています。補助金が支給される20名の利用が必要であり、小規模の学区だと補助金がもらえる年と、もらえない年があり、経営が困難になっています。入会権からの補助金についても今年度もらえないような話も出ています。このような状況を受け、補助金の増額等についての要望書提出も視野に入れておりますが、市から手助け等してもらうことは可能ですか。			
市長の回答	担当課	こども家庭課	
釜戸町にある学童クラブは、保護者の方々が開設して運営されるというルールのもとで、これまで継続されています。開設当時と比較して、市は補助金を増額する等の支援もさせていただいております。 釜戸町には入会権という資金があり、これまでそこから補助金が出ていたとのことですが、何らかの判断により、今年はゼロとなったのかもしれませんが。 ご意見にもありますように、要望書の提出についても、区長会等での総意をまとめたいただき、市の補助金や入会権について言及していただくと、前に進んで行けると考えています。			

地区名	釜戸地区	番号	5
タイトル	リニア中央新幹線について		
ご意見の内容			
釜戸町の魅力である「自然」を守るためにも、リニア中央新幹線掘削工事で起こった湧水や、地盤沈下問題の原因がはっきり分かってから、工事を進めていただきたい。市長さんに先頭に立っていただき、「原因が分かるまでは工事はストップだ。」と、JR東海に伝えていただきたいです。 私自身が住んでいる場所の近くにリニアのトンネルが掘られるのですが、近所の沢が枯れたりしないか、そして、釜戸の自然が壊れてしまうのではないかと心配です。			
市長の回答	担当課	企画政策課	
JR東海には、再度同じ問題が起きないように、調査などを今まで以上に徹底するよう伝えます。もし、弱い地盤が見つかった時には、何らかの対策をしてから工事を進めるよう伝えます。 また、地下水位を観測するため、井戸の位置等についても並行して調査を行い、大湫の対策を参考にしていく必要があると思っています。			

地区名	瑞浪地区	番号	1
タイトル	公立東濃中部医療センター開院後の現東濃厚生病院の後利用について		
ご意見の内容			
公立東濃中部医療センターの開院に伴い、現東濃厚生病院の機能が瑞浪市から無くなることは不安に感じております。また、長年にわたり築き上げた地域との協力関係や人的交流が失われることも懸念されます。 東濃厚生病院の後利用として、一次医療機関として継続するよう要望していると聞いておりますが、実現はするのでしょうか。現在の状況を教えてください。また、瑞浪地区から新病院への通院は、東濃厚生病院への通院に比べて不便になります。公共交通等の通院手段は予定されていますか。			
市長の回答		担当課	健康づくり課
東濃厚生病院の後利用については、JA岐阜厚生連に対して、一次医療機能の継続と、福祉・介護施設等としての活用を要望してきました。この要望をもとに、JA岐阜厚生連と瑞浪市、恵那市による協議会を設置し、協議を進めてきました。 JA岐阜厚生連からは、東濃厚生病院敷地内の南側にある健康管理センターの建物を活用し、一次医療機関として開業医と同等機能の診療所を開設する予定であると聞いていますが、診療所に配置する医師の数や診療科等の詳細は、公立東濃中部医療センターの医師確保の状況によるため、直前まで決まらないとのこと。診療所の開設時期は、東濃厚生病院が令和8年1月に閉院した後、健康管理センターの改装工事を行ってからになるようです。また、この診療所は、入院機能を持たないため、精密検査が必要な場合等は公立東濃中部医療センターへ紹介する流れになります。 病棟のある本館棟については、JA岐阜厚生連が福祉・介護施設等を運営する社会福祉法人等の誘致を進めましたが、話がまとまらなかったことから、建物を有効活用していただける事業者を優先に業種の幅を広げて探した結果、学校法人安達学園が活用することになりました。 また、令和8年2月に開院する公立東濃中部医療センターへのアクセスにつきましては、現東濃厚生病院からのシャトル便を運行する方向で、JA岐阜厚生連と協議を進めています。現東濃厚生病院と新病院の間のシャトル便ですので、途中で停留所を設ける予定はありません。 なお、シャトル便の運行は、JA岐阜厚生連の事業として実施していただく予定です。JA岐阜厚生連はその便数などについて、東濃厚生病院で行ったアンケート調査の結果などをもとにニーズを把握し、検討すると聞いています。 現東濃厚生病院までのアクセスは、引き続き、コミュニティバス、デマンド交通をご利用いただきたいと思います。シャトル便とコミュニティバスとがうまく乗り継ぎできるような運行時間をJA岐阜厚生連と協議を進めており、それぞれ決まりましたら、市とJA岐阜厚生連から周知いたします。			

地区名	瑞浪地区	番号	2
タイトル	駅周辺の再開発におけるスケジュールと周辺への影響などについて		
ご意見の内容			
北側、南側の供用開始までのスケジュールを教えてください。(用地確保の状況、工事の着手から完成までの項程から供用開始までのスケジュール) 駅南側の工事において、施行中の周辺の影響はありますか。何かしら影響がある場合、対策はどのように考えていますか。 中心市街地周辺の大規模商業施設が充実する中、再開発地区を含めた駅周辺の賑わいへの期待をお聞かせください。再開発後、駅周辺の利用者が増えるとして、市内の利用者が来るための方法、例えばバスなどの公共交通機関を増やす(曜日や時間などで)ことは考えられていますか。			
市長の回答	担当課	シティプロジェクト推進課	
初めに事業スケジュールについてお答えします。 瑞浪駅北地区については、基本計画並びに要求水準書にのっとり、現在複合公共施設の整備運営事業者の公募を行っており、本年9月末までに設計事業者及び複合公共施設の運営予定事業者と業務委託契約を締結する予定です。その後、令和8年12月までに設計完了、令和9年4月工事着手、令和10年11月工事完了、その後開館準備を行い、令和11年3月開館を目指します。また、駅北駐車場の拡張や関連する道路の改良についても、同時期の完成を目指して事業を進めています。 用地の取得状況については、駅北地区の事業範囲が約2.2haで、そのうち1.2haが市の用地です。残りの約1.0haを取得する必要があります。用地交渉を行っています。極めて少数の方を除き、概ねご理解をいただいておりますので、引き続き用地交渉を進め、令和9年3月末までの用地取得完了を目指しています。 令和9年、10年の2か年で、複合施設の建設を行い、令和11年春に施設のオープンを目指します。この複合施設には、文化センター機能や図書館機能、キッズスペースなどを予定しています。 また、今回の駅周辺再開発に伴い、JR東海と瑞浪駅北に新しい改札口の整備について協議しています。これにより、駅南の混雑の緩和や駅の利便性が向上すると思います。 駅南地区については、瑞浪駅南地区市街地再開発準備組合にて、市街地再開発事業実現に向けて権利者との調整や、事業に必要な都市計画決定、事業認可などの手続きを進めています。現時点では手続きが完了していませんので詳細なスケジュールは申し上げることは出来ませんが、準備組合と市で協力し事業推進に務めてまいりたいと思います。 続いて、瑞浪駅南地区の工事における周辺への影響についてお答えします。 瑞浪駅南地区の工事については、再開発ビルの建築の他に、駅前広場の拡張、県道瑞浪停車場線の道路改良、電線地中化及び水道管布設替工事を予定しています。今年度より、岐阜県多治見土木事務所にて県道改良や電線地中化、市上下水道課にて水道管布設の設計を進めています。今後これらの設計を進める中で、それぞれの工事の際に、車両や歩行者の安全に配慮した施工方法等を検討してまいりたいと思います。施工時には工事内容や規制方法等の周知徹底に努めてまいりますのでご理解・ご協力いただきますようよろしくお願いします。 最後に駅周辺の賑わいへの期待などについてお答えします。 シャッター街となってしまった中心市街地に、新たに魅力ある商業施設や公共施設を整備し、歩行しやすいオープンスペースを造ることで、居心地が良く魅力あるまちとすることを目指します。現在、駅周辺でMビルやマーケット等の社会実験を行っており、催しによっては多くの人が訪れ、賑わうことが確認されています。また、中京高校が東濃厚生病院の跡地に開校し、毎日約1,100人の生徒が駅周辺で買い物や憩いの場として活用するので、さらに賑わっていくのではないかと期待しています。今後これらの整備をきっかけに、駅周辺に多くの人が訪れ、様々な方々が魅力ある活動をする中で更に多くの人たちが集まり、中心市街地として賑わうまちとなることを期待します。ご提案いただいた駅周辺利用者の交通への配慮については実情を確認しながら、瑞浪市地域公共交通協議会にて検討していただきたいと思います。			

地区名	瑞浪地区	番号	3
タイトル	人口問題について		
ご意見の内容			
令和7年度の予算は、加速する人口減少に歯止めを掛けるためにも、積極的な投資的予算であると伺いました。しかし、今後人口が減少していく中で、現在の投資が将来の世代の負担に繋がらないか懸念をしています。 また、人口減少が進むとすれば、様々な課題が生じてきます。人口が減少しても、市民が安心して幸せに暮らせるような方向で、将来設計をすることも必要ではないでしょうか。			
市長の回答	担当課	企画政策課 総務課	
人口減少については、多くの要因があると思います。国や県と市の政策がうまくマッチングできていないかもしれませんし、また、今の若い世代の皆さんも昔と考え方が違ってきているのでは、とも思います。色んな状況で相互に作用して、今の人口減少の現状になったと考えられます。人口増加のために企業誘致も進めたのですが、人口減少のスピードを抑えることはできましたが、増加には至りません。それだけ人口減少のスピードが上がっているのだと予想されます。つまり「何もしない」と、より人口減少は進んでいってしまうので、本市を魅力的な街にするべく、一定の事業、投資をしていく必要があると考えています。 人口減少対策については、一つの事業といった単一的な取り組みではなく、様々な事業を多面的に取り組むことで、人口を維持・向上できるものと認識しています。 こうした認識を持って、瑞浪市は令和6年2月に、令和6年度から令和15年度までの10年間を計画期間とした「第7次瑞浪市総合計画」を策定しました。 総合計画とは、行政運営の指針となる市の最上位計画にあたり、将来都市像として「幸せ実感都市みずなみ 〜いっしょに創ろう 夢ある未来〜」を掲げ、令和15年度末の目標人口を34,000人程度(令和7年6月1日時点:34,975人)としています。 こうしたことから、2つの重点施策である①安心して子どもを産み育てられる環境づくり(子育て支援)、②地域の魅力をオールみずなみで発信する(シティプロモーション)と、5つのまちづくりの基本方針である、①人・未来を育むまちづくり、②魅力あふれるまちづくり、③生涯活躍のまちづくり、④活気みなぎるまちづくり、⑤持続可能なまちづくりに位置付けられた各種事業を、着実に推進することが、人口減少対策につながるものと考えています。 人口減少だけではなく、本市は多くの大きな課題に直面しています。その他にも「街の活性化」「地域医療の確保」「広域連携」「子育て支援」「持続可能な公共交通の確保」など様々です。 これらの課題に重点的に取り組むため、令和7年度当初予算は、瑞浪駅周辺の再開発(13億1,646万円)、東濃中部医療センターの建設(7億2,770万円)、東濃5市消防指令センターの建設(10億837万円)、子育て家庭を対象とした物価高騰対策(7,200万円)などを盛り込み、積極予算(過去最大207億9,000万円)となりました。 確かに財政運営としては厳しい時期が続きますが、リニア中央新幹線の開業や、瑞浪恵那道路の開通といった国家的なプロジェクトが動き始めた“今”が、将来の瑞浪市の礎となる事業に取り組むタイミングであると考えています。 事業を実施するにあたりましては、国・県の補助金や計画的に積み増してきた基金(貯金)などを活用することで、市債(借金)の借り入れを抑制しています。今後も将来の世代に過度な負担を残さないよう、例えば施設においては複合化、統合等によるコンパクトシティ化を進め、持続可能で健全な行財政運営に努めてまいります。			

地区名	瑞浪地区	番号	4
タイトル	子育て支援の補助金について		
ご意見の内容			
こども家庭庁が「はじめての100か月」として子育てのビジョンを掲げており、切れ目のない子育てというものがポイントの一つになっています。瑞浪市では、切れ目のない子育てという点で、保護者の方から不安の声を聞く機会があります。 5年前から寺子屋を運営しており、子どもの居場所づくり事業として補助金を交付していただきました。また、令和6年度には季節学童保育を実施し、補助金を交付していただきました。しかし、人件費などを考えると補助金と保育料だけでは運営が厳しい状況です。 子育て支援に対して何かもう少し支援をしていただくことはできますか。			
市長の回答	担当課	こども家庭課	
瑞浪市のために学童保育などの市民サービスにご協力いただき感謝申し上げます。 瑞浪市としましても、市民に寄り添った支援を行っておりますので、これからも協力しながら一緒に進めていただければと思います。 保育園や寺子屋を運営している方ならではの現状や意見もご提案いただけますようよろしくお願いいたします。			

地区名	大湫地区	番号	1
タイトル	公共交通の確保や大湫宿の観光施設などの対策について		
ご意見の内容			
公共交通としてコミュニティバス、デマンド交通以外の他にタクシーという手立てがありますが、運転手不足の問題などもありすぐには来てはくれません。ライドシェアという手立てはどうでしょうか。「国土交通省は、タクシーが不足する地域だと認められた場合に、地域ごとに定められた曜日や時間帯に限りサービスの実施を認める方針」とのことですが、瑞浪市の場合はいかがでしょう。 中山道大湫宿は四季を通して散策される方が多く、最近はインバウンドにより外国人旅行者も多く訪れています。中山道沿いのトイレの問題ですが、琵琶峠西口にあるトイレは冬場凍結して使用できず支障をきたしています。中山道釜戸町大久後に設置されているようなバイオトイレの設置はできないものでしょうか。 大湫町で唯一の商店が閉店しました。隣町の釜戸町、日吉町にも商店がありません。住民や観光客などに不便が生じています。市としての対応はいかがでしょう。			
市長の回答	担当課	商工観光課	
公共交通については、本市において大きな課題があると考えております。大湫町については、東鉄バスが通っておりませんので、コミュニティバスとデマンド交通をご利用いただいております。しかしながら、時間の制約や使い勝手が悪い等のご意見もいただいております。その課題解決に取り組んでいるところです。 ご意見いただきましたライドシェアについてですが、その必要性を確認するため、昨年度、連合自治会にタクシー不足に関する意見調査を実施しました。その結果としまして、大湫町以外の一部地域において夜間に不足しているなどといった意見がありました。 市では、デマンド交通を導入しており、運行時間内の交通空白はありませんが、夜間や休日など時間的な空白があり、ライドシェアはこれを解消するための一つの手段であると考えております。 ライドシェアの導入にあたっては、担い手となる運行事業者との調整が必要となります。しかしながら、近年、乗務員不足といった問題が深刻化しておりますので、運行事業者による実施は困難であることも考えられます。NPO法人等が実施主体となり、公共ライドシェアを行うことも可能ですので、地域での導入もご検討ください。 市としましては、今後も引き続き、ライドシェアに係る調査、運行事業者の実施可否等の確認を実施する中で、制度の導入について検討していきます。 また、中山道沿いの公衆トイレについて、現在バイオトイレの新設等は維持管理の大変さ、金額面の観点から検討していませんが、冬季も琵琶峠のトイレを使用できるよう凍結対策を検討していきます。 細久手宿から大湫宿までの区間には、琵琶峠のほかに、北野神社付近に公衆トイレを設置していますので、冬季に散策される観光客には、北野公衆トイレをご案内いただきますようお願いいたします。 商店の閉店に伴い、大湫町内で観光客が買い物する場所がないことについては、市としても課題として認識しています。今後、中山道観光案内所の丸森での物品等の販売を、他の施設から調達するなどの方法での実施が可能か検討していきます。 丸森の次期指定管理業務と同時に物販を開始することはできませんが、業務引き受けの可能性のある事業者との協議を継続し検討していきます。			

地区名	大湫地区	番号	1-2
タイトル	琵琶峠公衆トイレの汲み取りについて		
ご意見の内容			
琵琶峠の公衆トイレについて、足又区の方で浄化槽の点検と清掃を当番制で行っていますが、タイミングによっては浄化槽がオーバーフローしたことがあります。特に繁忙期(4月～11月)については、毎月1回市の方で浄化槽の汲み取りしていただくと利用者の皆さんも安心かと思います。			
市長の回答	担当課	商工観光課	
今年度、9～11月に定期汲み取りを行います。来年度以降は、今年度の観光客数に応じ、繁忙期の月に定期汲み取りを行います。			

地区名	大湫地区	番号	1-3
タイトル	丸森での飲食について		
ご意見の内容			
現在、丸森の中では飲食ができません。例えばアイスクリームを売ったとしても、食べるのは外になってしまいます。丸森で飲食できるようになりませんか？			
市長の回答	担当課	商工観光課	
丸森の次期指定管理業務と同時に物販を開始することはできませんが、業務引き受けの可能性がある事業者との協議を継続し検討していきます。 また、丸森施設内での飲食については、大湫宿内で物販のできる環境が整った段階で、飲食不可の運用の変更を検討いたします。 【瑞浪市大湫町旧森川訓行家住宅に係る指定管理業務特記仕様書より】 5-1-4の3)－施設の設置目的に資する場合、自主事業として土産物等の販売も可とする。 5-1-6の3)－敷地内での禁煙及び指定箇所以外の飲食の禁止の徹底。 とあり、物品の販売や施設内での飲食についてはこれらの表現や解釈の変更が必要です。 施設内の体制で、来場者に対し軽飲食(容器付き冷凍食品、カップ麺、お茶等)等の品目を限定しての販売は可能と思われますが、来場者の反応をみる限りでは、求められるのは“地元飲食施設で作られた地元食材(山菜そば)”のようなものであり、この場所でインスタント食品を食べたいという方は殆どいないのが実態です。 丸森施設内での調理提供はできないため、他施設も活用しながら町全体で検討していくべき課題であると受け止めています。			

地区名	大湫地区	番号	2
タイトル	山火事などの防災対策について		
ご意見の内容			
この数年、諸外国での山火事は対岸の火事と思っていました。しかし、今年に入って岩手県大船渡市などをはじめ、全国各地で大きな火災が発生しています。山林に囲まれた大湫町では大きな問題です。 日本の場合は、山火事は地震や豪雨災害などの自然現象が原因のものではなく、多くが焚火やたばこの吸い殻などの火の不始末が原因となることが多く、予防できる災害の一つでもあります。広報での火災予防の呼びかけも大切ですが、乾燥注意報が発令されたら広報車を出して注意喚起の巡回をするなど、より踏み込んだ防災対策をとっていただきたいと思います。 そして、山火事での防災ヘリ活動時の水源の確保として竜吟湖の水量の確保。また大湫町に限らず市内に防火帯の確保や避難計画などを市の防災計画に盛り込んでいただきたいと思います。 現在、約400ヘクタールの山林を管理しており、約60年前から災害に強い森、そして保水力のある森というものを継承してきました。 間伐事業を木材を搬出する役割や災害予防のため積極的に行ってきました。しかし、豊かな森を作っても、火災の燃料が蓄積されてると感じます。 自然火災の割合はごく少なく、大半は人為火災だと思います。焚火やタバコのポイ捨て禁止などの啓発活動を徹底することが防災に繋がるとは思いますが、どう考えているのか意見をお聞きしたいです。			
市長の回答	担当課	消防本部	
林野火災は2月から5月の春先に多く発生しており、本市の森林面積割合は約70%ということもあって、この時期は林野火災について、警戒感を持っています。特に今年は全国各地で大規模な林野火災が多発しましたので、より一層危機感を強めています。火災予防広報については乾燥注意報や強風が予想される日に実施し、昨年の上記期間中における火災予防広報は1回でしたが、今年は6回の火災予防広報を実施し、3月には大湫町を含めた市内を広報車で巡回広報いたしました。例年3月の春季火災予防運動と11月の秋季火災予防運動では、消防団も消防車などで市内各地を巡回し広報活動を実施しています。 また、市内の山間部には「山火事注意」の看板を設置し、毎年点検を行って維持管理をしています。 防災ヘリの水源の確保についても重要なことですので、岐阜県防災航空隊と連携し市内の湖など、複数の水利を確保し備えています。 防火帯の設置や避難計画等防災計画の見直しについては、全国で発生した大規模な林野火災に対する国や県の動向を注視しているところです。ご意見につきましては、今後の課題として、関連部署に展開いたします。 火災などが起こった際、消防職員等が現場に到着する前までの初期対応は、地域の方にしかできないため、市では防災リーダー養成講座や防災士の資格を取得できる制度を設けています。地域を守るためにこのような制度も活用していただき、災害に備えるということもぜひしていただければと思っています。 なお、大湫町北区と西区は木造住宅の密集地域として、令和4年度に「重点防火指導対象地域」に指定していることから、これまで2回、地域住民の方と一緒に防火訓練を実施しております。加えて、火災シーズンの春や秋には、消防団、消防本部が巡回させていただきます。			

地区名	大湫地区	番号	3
タイトル	公立東濃中部医療センターへのアクセスについて		
ご意見の内容			
令和8年2月の開院に向けて建設工事などが進められていますが、公立東濃中部医療センターに、一番遠くなる大湫町からの交通手段はどのようになるのでしょうか。以前、東濃厚生病院に恵那南部地域からのバスの運行があったように、日吉町北部を含んだバスの運行があるのでしょうか。また、デマンド交通の公立東濃中部医療センターへの運行はあるのでしょうか。 シャトルバスの便数について、診察の予約時間などを考慮した上で多く設定していただきたいです。また、自宅から東濃厚生病院に行き、シャトルバスを利用する際、駐車場を使用することは可能ですか。 公立東濃中部医療センターの駐車場ですが、かなり広いスペースが設けられているように思います。駐車場の端に車を止めたら、受付までかなりの距離になると思います。高齢者などの外来患者が移動する手段などはあるのでしょうか。また、雨除けなどのアーケードの設置が必要だと思いますが、設置予定はありますか。			
市長の回答	担当課	健康づくり課	
新病院のアクセスについては、いろいろな説明会場で質問をいただいています。瑞浪市、土岐市、病院を運営するJA岐阜厚生連も、大きな課題として受け止めています。 令和8年2月に開院します公立東濃中部医療センターへのアクセスにつきましては、現東濃厚生病院からのシャトル便を運行する方向で、JA岐阜厚生連と協議を進めています。 シャトル便の運行については、病院の運営を担うJA岐阜厚生連に実施していただく予定です。JA岐阜厚生連はその便数などについて、東濃厚生病院で行ったアンケート調査の結果などをもとにニーズを把握し、検討するとのこと。患者さんの不便がないように、JA厚生連に対して、いただいたご意見を伝えておきます。 現東濃厚生病院までのアクセスは、引き続き、コミュニティバス、デマンド交通をご利用いただきたいと思います。シャトル便とコミュニティバスとがうまく乗り継ぎできるような運行時間をJA岐阜厚生連と協議します。シャトルバスを利用する際の駐車場につきましても、JA岐阜厚生連にご意見をお伝えします。 また、東濃厚生病院が患者さんの送迎用に、日吉、釜戸、陶方面で週1便ずつ運行している「けんこう号」については、その発着地を公立東濃中部医療センターとしたうえで、当医療センターが開院した後も継続するよう協議をしています。 なお、公立東濃中部医療センターの駐車場については、玄関から遠い方は職員用とし、外来、患者さん用の駐車場は玄関に近い方に配置する予定です。駐車場内での移動手段（マイクロバスで巡回すること）は考えておりませんので、ご理解のほど、よろしくお願い致します。 アーケードにつきましては、建設工事を進めています東濃中部病院事務組合に要望がありましたことをお伝えさせていただきます。			

地区名	大湫地区	番号	4
タイトル	リニア中央新幹線について		
ご意見の内容			
工事等の正確な情報を住民が知るために瑞浪市にリニア中央新幹線対策委員会の設置をしていただきたいです。 地盤沈下などにおける補償内容の交渉を市がJR東海と住民の間に立って行っていただきたいです。さらにその内容は、どのようなものか教えていただきたいです。 JR東海が行っている地盤調査などの進捗状況、水質問題について、また市としての取り組みは考えているのかを教えていただきたいです。			
市長の回答	担当課	企画政策課	
今市がやるべきことは、大湫の皆さんの意見や困りごと、課題をしっかりと聞かせていただいて、それをJR東海と県の岐阜県環境影響評価審査会地盤委員会に伝えるということです。目安箱を設置し、市の職員を、大湫コミュニティーセンターに週2回(毎週火・木曜日の午前中)、常駐させていただいております。 地盤沈下等の補償については、まず現在の状況でお宅に不都合が生じている場合は、速やかにJR東海に伝えていただき、直ちに応急措置の交渉をすることができます。その他の地盤沈下が出ているものの、生活に支障がないお宅については、地盤沈下が収まってからの対応となると考えられます。そこでしっかり要望していただければと思います。 JR東海が行っている地盤調査などの進捗状況、水質問題については、情報が出てきた段階で速やかにお知らせします。			

地区名	大湫地区	番号	5
タイトル	市道割山1号線、市道割山2号線の補修について		
ご意見の内容			
市道割山1号線と市道割山2号線について、通行車両が増えたため、道路状況が悪く、岩も露出しパンクの心配などがあります。穴ぼこについても私の方で砂利で埋めたりしますが、すぐに状態が悪くなってしまいます。観光のお客様もたくさんお見えになる道路ですので、市でしっかりとした補修工事をご検討いただきたいです。			
市長の回答	担当課	土木課	
現地立会いを行い、補修必要箇所の確認をさせていただきました。岩が露出して通行に危険と判断した箇所については補修工事を今年度に行います。来年度以降、一部路線の舗装工事について検討させていただきます。			

地区名	明世地区	番号	1
タイトル	自治会離れについて		
ご意見の内容			
担い手不足が顕在化してきており、特に高齢世帯が多い地区は役員の選出が困難になってきています。現役世代も定年が長くなっており、70歳近くでも働く人が増えていますし、子育て世代も役員になることを敬遠しており、脱退する人が増えています。今後、さらに担い手不足が深刻化することが予想されますが、市長はどのように考えていますか。 また、自治会加入率も低くなってきており、ゴミ出しルールが徹底されず、役員や当番の負担が増加しています。ゴミ集積場所の管理は各自治会で管理しているにもかかわらず、非加入者も使用するのには納得できない、との声も聞こえてきています。加えて、行政からの依頼が多いのも、自治会離れを生じさせていると思われます。また、募金など自治会で回すことから、加入者と未加入者で金銭面などの負担もあるので、なにか改善方法はありませんか。 そこで、いくつか提案をさせていただきますので、ご回答ください。 ・自治会の負担軽減のため、行政の自治会への協力依頼を見直し、必要な業務の簡素化につなげていただきたいと思います。加えて募金等の依頼などの金銭的負担についても検討いただきたい。 ・情報提供について、SNSやデジタルツールを活用した連絡手段を拡充し、情報伝達をスムーズにしてほしいです。自治会アプリ等の導入はいかがでしょうか。 ・自治会の加入支援のため、自治会に加入することのメリット、もしくは加入しないことのデメリットを明確にしていきたいと思います。			
市長の回答	担当課	市民協働課	
人口減少や高齢化、さらにはライフスタイルの変化から、担い手不足や自治会離れが進み、自治会活動や組織の見直しが市全体の課題であると認識しています。そこで今年度から、 ①自治会・まちづくり推進協議会の組織改革支援 ②充て職など市等からの依頼事項の把握・削減 ③様々なモノ・ヒトを繋げ、地域活動を促進させるアプリ等の情報連携システムの構築を3本の柱として、瑞浪市のまちづくりをアップデートする事業を進めております。 ご提案いただきました、1点目の自治会の負担軽減のための依頼事項の見直しについては、今年度より市等からの依頼事項の把握に着手していきます。しかし、交通安全協会などの別団体の場合は、市で決められませんので、団体の意見を聞きながら検討を進めます。募金等の依頼についても、自治会組織の見直しの一環にあたりますので、各自治会と手を取り合ってともに検討していきたいと考えております。 2点目の情報提供についても、アプリ等の導入を検討しており、瑞浪市のイベント情報の集約や発信を含めた機能の充実や住民の皆さんの得意分野がまちづくり活動につながっていくようなシステムの設計について、進めていきます。アプリの開始時期については検討中です。 3点目の自治会の加入支援としては、自治会内での組織改革をともに進め、入会したくなるような自治会へ生まれ変わることを目指してまいります。また、自治会に入っていることのメリットが明確に認識でき、自治会に入って良かったと思えるよう、各自治会とともに様々な施策等を検討していきたいと考えております。			

地区名	明世地区	番号	2
タイトル	超深地層研究所について		
ご意見の内容			
跡地利用について、土地賃貸借契約の終了後は、瑞浪市としてどのような利用方法を検討していますか？ 散策道再整備について、超深地層研究所から化石博物館横の大島1号古墳までの散策道が荒廃していますので、再整備して有効活用してはどうでしょうか？			
市長の回答	担当課	企画政策課 都市計画課	
明世町で20年間行われた瑞浪超深地層研究所での地層処分研究は終了し、掘削された立坑・横坑の埋め戻し作業も完了しました。現在は、立坑の沈下の影響を確認するための経過観察(モニタリング)期間中で、あと2年ほどで終了予定です。沈下も落ち着いてきており、観察が終われば日本原子力開発機構が整地をして市に返還します。 返還後の跡地利用については現時点で未定です。 今後、明世町の皆さんのご意見も伺いながら、市にとって有意義な活用方法を考えていきたいと思います。 また、散策道は、化石博物館を起点に、大島1号古墳を経由しながら、市民プール駐車場跡地へ伸びる約700mの遊歩道です。大島1号古墳は、もともと瑞浪市釜戸町大島にありましたが、中央自動車道の建設に伴い、調査後、昭和49年3月に化石博物館の隣に移築復元されたものです。 市はこの遊歩道の管理として、毎年2回の下刈り、倒木や落ち枝等の除去を行っています。今年度も、6月上旬と10月下旬に通行帯の下刈りを行います。 昨年度、古墳の看板を刷新いたしましたが、利用される方は少ないようです。今後も多くの方の利用は見込まれず、現在、散策道の再整備の計画はありません。			

地区名	明世地区	番号	3
タイトル	人口減少対策について		
ご意見の内容			
中京学院大学移転もあり、さらに若者が減少することが懸念され、市の存続問題にもつながりかねないと思われます。瑞浪市では今後、人口減少に対してどのような対策を講じていくかをお示しください。			
市長の回答	担当課	企画政策課	
人口減少対策については、一つの事業といった単一的な取り組みではなく、様々な事業を多面的に取り組むことで、人口を維持できるものと認識しています。 こうした認識を持って、瑞浪市は令和6年2月に、令和6年度から令和15年度までの10年間を計画期間とした「第7次瑞浪市総合計画」を策定しました。 総合計画とは、行政運営の指針となる市の最上位計画にあたり、将来都市像として「幸せ実感都市みずなみ 〜いっしょに創ろう 夢ある未来〜」を掲げ、令和15年度末の目標人口を34,000人程度(令和7年6月1日時点:34,975人)としています。 こうしたことから、2つの重点施策である①安心して子どもを産み育てられる環境づくり(子育て支援)、②地域の魅力をオールみずなみで発信する(シティプロモーション)と、5つのまちづくりの基本方針である、①人・未来を育むまちづくり、②魅力あふれるまちづくり、③生涯活躍のまちづくり、④活気みなぎるまちづくり、⑤持続可能なまちづくりに位置付けられた各種事業を、着実に推進することが、人口減少対策につながるものと考えています。 さらに、瑞浪駅周辺再開発や、東濃厚生病院跡地への中京高校の移転、中京中学校の創立、リニア中央新幹線の開通なども控えていますので、より魅力のあるまちづくりをし、住み続けるまちに瑞浪市を選んでもらえるような取り組みをすることが、人口減少対策にもなるのではないかと考えています。			

地区名	明世地区	番号	4
タイトル	カフェ楽について		
ご意見の内容			
カフェ楽が閉業して、以前は次の経営者を公募をしていたのですが、その後の状況を教えてくださいたいです。			
市長の回答	担当課	都市計画課	
カフェ楽は、なかなか従業員が集まらないことから、去年の12月に閉業をしました。市民公園には軽食等ができる施設が必要だと考え、新たな経営者を公募しました。 その結果、観光協会から飲食店や観光の拠点として活用したいという提案をしていただき、令和7年10月1日にカフェ「化石食堂」がオープンしましたので、ぜひご活用ください。			

地区名	明世地区	番号	5
タイトル	明世町のコミュニティバスについて		
ご意見の内容			
明世地区の子どもたち(戸狩以外)は、中学生になると自転車通学する子が多いです。通学の際、家族が仕事の調整をして送迎するか、送迎が難しい家庭は、悪天候でも自転車通学や、1時間近くかけて徒歩通学をしている状況です。 下校時刻が遅い日や、悪天候の自転車通学がとても心配です。コミュニティバスを中高生の乗りやすい時刻(始業に間に合う時間等)に変更・追加の検討をしていただきたいです。または、学校の始業時間について融通等はできないもののでしょうか？			
市長の回答	担当課	商工観光課 学校教育課	
【商工観光課】 コミュニティバスの時刻表については、需要を把握した上で設定しています。現在の時刻表にて多くの方が利用していますので、大幅に時間を変更することはできませんが、運行事業者等と時刻表の変更について検討してまいります。 なお、増便については、乗務員や車両を新たに確保する必要があり、困難です。 【学校教育課】 荒天時の始業の融通等についてですが、全校生徒の多くの登校が遅れる状況ではない荒天時には、全体の始業を遅らせる等、全校に対して特別な対応はとることはできません。しかし、ご意見にあるような状況がある場合は、個別の対応をしていきます。具体的には、荒天時にコミバスで登校することを認め、始業時間に遅れても、遅刻としても扱いません。また、遅れた分、受けられなかった授業内容については、別の時間に個別に補足していくなどの支援をしていきます。			

地区名	明世地区	番号	6
タイトル	健康管理センターについて		
ご意見の内容			
東濃厚生病院の跡地は、安達学園が利用すると聞きましたが、隣にある健康管理センターはどうなりますか。			
市長の回答	担当課	健康づくり課	
JA岐阜厚生連からは、東濃厚生病院敷地内の南側にある健康管理センターの建物を活用し、一次医療機関として開業医と同等機能の診療所を開設する予定であると聞いていますが、診療所に配置する医師の数や診療科等の詳細は、公立東濃中部医療センターの医師確保の状況によるため、直前まで決まらないとのことです。 診療所の開設時期は、東濃厚生病院が令和8年1月に閉院した後、健康管理センターの改装工事を行ってからになるようです。また、この診療所は、入院機能を持たないため、精密検査が必要な場合等は公立東濃中部医療センターへ紹介する流れになります。			

地区名	日吉地区	番号	1
タイトル	若い世帯、移住者が増え、人口減少を緩やかに ※日吉町地域計画2024の目標		
ご意見の内容			
令和6年11月に2,000人を切った日吉町の人口は、令和7年5月には1,960人と急速な人口減少が進んでいます。市の移住定住施策が実施され、まちづくりも独自の活動を進めていますが、減少に加速感があります。その対策として、二つの観点から提案・要望したいと思います。 ①月吉地区の企業誘致と並行した移住定住施策の検討 4月の区長会で「月吉地区で工業用地開発の基本計画策定を行なう。」「一部上場企業も進出の意向を示している。」と市長より説明がありました。雇用の場が創出され、日吉の若者が地元に残る効果が期待されます。 一方、市外・県外から就職する若者も多くいると思います。そういった若者が家庭を持ち、ほんの数分で通勤可能で、自然環境に恵まれた日吉に住んでくれたら更に企業誘致の価値が高まります。企業誘致の副産物として効果を期待するのではなく、開発と並行して移住定住施策を検討ください。 ②日吉てらこや 日吉てらこやは、必要性を強く感じた保護者が運営主体となり、市の援助が受けられたことで始めましたが、最大の原動力は地域のみなさんの協力です。ボランティア精神で協力していただいているが、今後の人材、予算等も心配で、こういった形での運営が持続できるか不安に感じることがあります。 例えば、「老人憩いの家福寿荘」と「日吉てらこや」を統合させ、お年寄りも子どもたちも集まれるような施設にするなど、今あるものを残しつつ、バージョンアップをする取り組みの検討や、金銭面の支援もしていただきたいと思っています。			
市長の回答	担当課	シティプロモーション課 こども家庭課	
①月吉地区の企業誘致と並行した移住定住施策の検討【シティプロモーション課】 現在、明世町月吉地区での企業誘致の計画は、約12ヘクタールの土地に、おおよそ5区画を整備する予定となっています。企業誘致により産業活性化と働く場の確保だけを図るのではなく、これと並行し、地域への移住定住を促進する施策を実施することが、持続可能な地域づくりには不可欠であると市も認識しています。 移住定住の受け皿として、現在本市が実施している施策としては「空き家バンク」や「空き家等改修補助金制度」があります。特に日吉地区においては、地域の皆さまが自発的に、空き家を移住希望者に活用してもらおうと「いい移住委員会」を立ち上げ、空き家の掘り起こしや利活用支援に取り組んでおられます。 このような住民主体の活動は、地域の力強さを示すものであり、市としても積極的に連携してまいりたいと考えています。 今後の施策展開としては、まずは既存制度の空き家バンクへの登録促進や、空き家情報の発信強化を図るため、いい移住委員会をはじめとする地域の皆さまと市がそれぞれの役割を担い、連携して課題に取り組むことで、持続可能な地域社会の土台を築いていきたいと考えています。また、企業誘致で進出する企業とも、移住定住施策で連携を図っていききたいと考えています。 ②日吉てらこや【こども家庭課】 日吉てらこやの運営につきまして、多くの方々のご協力誠にありがとうございます。夏休みには多くのお子さんが楽しく過ごしているというの聞いています。今後、日吉てらこやの在り方について、地域の皆さんと協議しながら、事業を行っていかうと考えています。 市内の公共施設については再編成を進めており、まだかなり先の話になりますが、日吉地区の公共施設についても、複合化等を検討していきます。 また、県・国が子供の居場所という形で、放課後児童クラブとは異なる制度を実施していますので、てらこやさんの要望を聞いたり、また日吉町の皆さんとも相談しながら、使える制度は使って、進めていきたいと考えています。			

地区名	日吉地区	番号	2
タイトル	日吉スポーツ施設について		
ご意見の内容			
スポーツ文化課より令和5年7月の区長会で、令和9年度をもって体育館・武道場の利用を終了し、令和10年度に解体とグラウンド利用者用トイレ新設を行なうと説明を受けました。 グラウンドは主にサッカーの利用と聞いていますが、利用はそれほど多くないと感じています。どうしてもこのグラウンドを残す必要があるのでしょうか。代替場所はないのでしょうか。グラウンドを残すとグラウンド以上に広い校舎が建っていた部分は後利用が困難です。 トイレを新築してグラウンドを存続させるより、企業誘致など学校跡地を一体とした後利用を検討した方が良くと考えます。解体予定の体育館等も払下利用の可能性も出てくるかもしれません。 月吉の白寿荘跡地には企業進出がありましたが、この場所より何倍も広い平場があります。企業誘致に限定するわけではありませんが、日吉町・市のために生かせる一体活用を検討ください。 また、グラウンド内に草が生い茂っており地元住民だけでは管理しきれません。施設の存続中はしっかりと施設管理をお願いします。			
市長の回答	担当課	スポーツ文化課	
日吉スポーツ施設の今後の方向性については、令和5年7月の区長会にて、体育館と武道場は令和9年度末で利用を停止し、令和10年度に取り壊し(除却)をすること、グラウンドについては、グラウンドを活動拠点にしているスポーツ団体があるため存続することを説明しました。 しかしながら、今年度になって、グラウンドの利用団体が活動拠点を他施設に移されたため、ほぼ利用がない状況です。そのため、改めて今後のグラウンドのあり方について検討したいと考えています。 用地の後利用については、現時点において未定です。日吉町のご意見も伺いながら有意義な活用を考えていきたいと思ひます。			

地区名	日吉地区	番号	3
タイトル	今後の施設等に関する瑞浪市の考え方について		
ご意見の内容			
全国的にも施設の集約化が進んできており、今後瑞浪市も施設の集約化をせざるを得なくなると思いますが、その際に人口の少ない日吉町などに施設が残らず、過疎化が進んでしまうのではないかと心配しています。 瑞浪市の方針として、全地区に対して開発等を進めていく予定なのか、もしくは、人口集中地区などに効率よく施設などを作り替えていく予定なのか、プランがあれば教えていただきたいです。			
市長の回答		担当課	総務課
人口減少等により、今まで通りの公共サービスを隅々まで提供することが厳しい時代になってきているため、日吉町にある施設なども、町内の中心部に複合施設として集約していく計画となっています。将来的には、瑞浪市全体で見ても、市の中心部に公共施設が集約化・複合化されていくと考えられます。 しかしながら、各地区の活動や、課題解消に向けた取り組みに対して、助成制度や補助金などを用意し、しっかりバックアップさせていただきますので、ぜひご活用ください。			

地区名	日吉地区	番号	4
タイトル	市道天徳本郷線の草刈り・高木の剪定について		
ご意見の内容			
市道天徳本郷線において、クリーンセンター辺りを境に、土岐町側は市(委託業者)が、日吉町側は町民が草刈り等を行っています。町民が行う際は、ボランティアですので、なかなか通行止めをしたり、飛び石防止の網を張ったりすることが難しいです。交通量も多く危険な状況で草刈りを行っています。大きくなりすぎた木を剪定するのも困難です。現在町民が草刈り等をしている場所も、市で草刈りを行ってもらうことは可能でしょうか。			
市長の回答	担当課	土木課	
本来、市道の維持管理は、市が行うことになっておりますが、地域の方にご協力いただき、行っている場所もあります。 草刈等に係る燃料、草刈機の刈刃、軍手などを支給する里親制度や、万が一、活動中に事故等発生した場合には、市民活動保障制度(保険)が事前手続き無しで適用されますので、ご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。 危険箇所の木の剪定に関しましては、市が対応させていただきます。			

地区名	陶地区	番号	1
タイトル	空き家・空き地バンク制度について		
ご意見の内容			
自治会もまちづくりも高齢化が顕著で、若者が入ってきてくれません。そもそも、若い人がいないので、陶町に住んでくれる人を増やして、自治会等に携わってくれる人を増やしていくしかないと考えています。そこで肝心なのが空き家・空き地バンクです。陶町は今日(R7.7.4)現在、8件登録があり、1件が賃貸で7件が土地です。住宅はすぐに売れているようです。それを考えると、住宅物件をもっと多く挙げていけば良いかと考えています。これを受けまして、空き家に関して現在瑞浪市が行っている施策内容は十分であると思いませんか。			
市長の回答	担当課	シティプロモーション課	
現在、市内全域で600件余りの空き家があります。瑞浪市に移住していただく、または、瑞浪市に戻ってまた住んでもらうために、空き家・空き地の活用に取り組んでいます。 どこにどんな物件があるのか、という情報発信が移住定住に繋がるということで、空き家・空き地バンク制度を設けさせていただきました。 なお、陶町で空き家・空き地バンクに登録されているものは8件あります。バンクに登録するためには、不動産関係者が判断する一定基準を満たさなければ、登録できないのが現状です。 また、バンクに登録していただいている物件に対しては、居住を目的とした改修補助金などの支援制度を使っていただけます。しかし、バンクに登録できる水準が高いのではないかと、バンク登録していなくても補助制度が受けられるようにしていただきたい、という意見が見受けられるため、今後、他市町村の事例を研究していきたいと考えています。			

地区名	陶地区	番号	1-2
タイトル	空き家空き地バンク制度について②		
ご意見の内容			
空き家に関して周辺の住民に聞き込みをしても所有者がどうしてもわからない場合、登記簿謄本などで不動産所有者を調べる必要があり法務局で600円必要となりますが、この経費について瑞浪市としてどう考えておられるのか、を教えてくださいたいです。また、空き家バンクに登録していない空き家として「施設等に入居して戻る可能性がない物件」、「空き家になり十分に管理できていない物件」が挙げられます。災害時の危険性や行政の職務負担、周辺の景観などを考慮したうえで、制度の改善をしてはどうですか。			
市長の回答		担当課	シティプロモーション課
所有者不明の空き家に関する調査費用の負担についてですが、空家等対策の推進に関する特別措置法に基づき、市は必要に応じて不動産登記簿等から所有者情報を把握することが可能で、調査費用を「空き家でええん会」が負担する必要はありません。このような案件が出てきましたら、シティプロモーション課までお問い合わせください。 具体的には、次のようなプロセスで取り組んでいきます。 まず、地域の皆さまには、空き家の実態把握や情報提供をお願いし、所有者不明の空き家については、市が地域の皆さまからの情報をもとに不動産登記簿等を活用して、所有者を特定します。その際、地域との連携を図るため、所有者へ送付する文書に、「空き家でええん会」等の空き家対策グループへの情報提供についての同意書を同封します。 その後、所有者から同意が得られた場合には、団体にも情報を共有し、連携して空き家の利活用を図っていきます。また、空き家バンクに登録するための条件が厳しいということから、条件緩和の必要性は感じており、今後検討していきます。 なお、大湫町、釜戸町、日吉町も移住定住に関して、独自の取り組みをしています。良い事例等も多数あるので、その部分は参考にさせていただき、また、困難な案件が出てきましたら、市にご相談いただき、連携しながら進めていただければと考えています。			

地区名	陶地区	番号	1-3
タイトル	空き家対策グループへの補助金や伴走支援の内容や方針の明文化について		
ご意見の内容			
空き家対策グループが活動していく上で、地域住民の力だけでは限界があり、専門家を交える必要があります。その際補助金は出ませんか。また、空き家対策グループが行う事業や計画への行政の伴走支援について、その支援の内容や方針を明文化(要綱等)していただきたいです。要綱等がない場合、空き家対策が、担当者の自主性や対応力、能力等に依存することになってしまいますので、担当者が変わると伴走支援の内容等にもバラつきが出る可能性があります。			
市長の回答	担当課	シティプロモーション課	
空き家については、陶町に限らず、地域にとって安全安心、景観、コミュニティの維持など多面的な課題を抱えています。そうした中で、地域の皆さんが空き家の課題を自分ごととして捉え、自発的に空き家対策グループ「空き家でええん会」を立ち上げ、主体的に活動に取り組んでおられることに対し、心から敬意を表します。 市としても、空き家の利活用や移住定住の促進は、重要な政策課題と位置付けており、地域でのこうした活動としっかりと連携を図りながら、課題の解決に向けて取り組んでいきたいと考えています。 今後は、市と空き家でええん会をはじめとする地域の皆さんとで、役割分担を明確にし、効果的に力を発揮できるよう、連携の枠組みを丁寧に構築していきます。また、活動の継続性や実効性を確保するため、市としても伴走型で支援を行います。 空き家の利活用を通じた地域の活性化、そして新たな住民を迎える環境づくりに向けて、引き続き地域の皆さんと力を合わせて進めていきます。 また、要綱等がないことについては、瑞浪市空き家等対策計画の第6章に、市民の皆さんや関係団体の皆さんと協働で進めていきたい、といったものが組み込まれています。 新たに要綱などを作成する予定はありませんが、他地区の関係者を含めた情報交換会などを開催することは可能と考えています。			

地区名	陶地区	番号	1-4
タイトル	空き家調査費等に関する助成金について		
ご意見の内容			
空き家調査費等に関する助成金ができただけの場合、夢づくり地域交付金とは別、もしくは、枠を広げるなどの対応をしてほしいです。検討される際は、まちづくり推進協議会と空き家対策グループの意見をヒアリングしてほしいです。			
市長の回答		担当課	シティプロモーション課
空き家対策グループが、費用にご負担いただくことは考えていないため、現時点で空き家調査費等に関する助成金制度の創設は予定していません。しかし、今後も空き家対策を進めていくうえで、今後の支援のあり方については、皆さんからの意見を伺いながら検討していきます。			

地区名	陶地区	番号	1-5
タイトル	空き家にかかる固定資産税について		
ご意見の内容			
空き家を解体して更地にした場合、固定資産税が約5倍かかると聞いたがどうなりますか。危険な空き家が放置される問題があるため、他市では特例を設けている話も聞きました。瑞浪市でも特例を設けるなど、何か施策はありますか。			
市長の回答	担当課	税務課 都市計画課	
固定資産税の課税にあたっては、住民の日常生活に必要と認められる住宅用地の税負担を軽減するという住宅政策上の見地から、住宅の敷地について税負担を軽減する制度がありますが、住宅を除却した場合、この軽減措置の適用がなくなり、除却前に比べ敷地に対する固定資産税は高くなります。 全国では、一部の市町村において、空き家を取り壊した敷地の固定資産税等を一定期間減免する施策を実施していますが、本市においては、空き家を取り壊した敷地の固定資産税等について、住宅用地特例相当分を減免することは、ほかの更地との税負担の公平性等の観点から行っておりません。 本市においては、危険な空き家除却の支援施策として、不良空家除却事業補助金を創設し、所有者が行う不良空家の除却工事費に対して補助率1/2(上限額50万円)の補助金を交付しています。			

地区名	陶地区	番号	1-6
タイトル	空き家の家財等の処分にかかる補助金について		
ご意見の内容			
空き家の中には、荷物が残ったままの物件が多くみられます。それらを片づける際、100万円以上かかってしまうため、補助金額の増額はできませんか。			
市長の回答	担当課	シティプロモーション課	
空き家バンクに登録されている場合、その片付け費用について10万円の補助制度(空き家家財道具等処分費補助金)を設けています。住宅は個人の資産であることから、家の中の荷物等については、所有者に責任がありますので、所有者での処分が最優先になります。しかし、スムーズに空き家を処分していただきたいことから、片付け費用として10万円の補助を設けています。 この先、空き家が増える可能性を国や県が配慮し、新たな補助制度が設けられるかもしれませんが、現在の市の制度に、ご理解いただきますようお願いいたします。			

地区名	陶地区	番号	2
タイトル	過疎化対策について		
ご意見の内容			
ここ数十年で陶地区は地場産業である陶磁器業界の衰退とともに、過疎化の一途をたどっています。以下についてご回答をいただきたいです。 ① 企業誘致はどのようにすればよいのか ② 農業用地をどのようにしていけばよいのか ③ 大規模農園としての再開発はできないのか ④ ①～③に関して参考となる市町村はあるのか ⑤ 陶町の現状、そして今後について瑞浪市はどのように考えているのか			
市長の回答	担当課	商工観光課・農林課・企画政策課	
【商工観光課】①、④ 企業誘致は地域経済の活性化を中心に様々な効果が期待できることから、陶町においても陶小学校跡地に企業を誘致するなど積極的に取り組んでいます。 誘致に当たっては、大規模の用地を必要とすることはもちろん、インフラの整備なども必要となります。しかしながら、陶町においては工場用地として活用できる用地がないといった現状であり、今後、大規模な企業誘致は困難となります。民間と民間の取引等があれば、協力していきたいと考えています。 本市としましては、引き続き、地場産業の活性化や新たな産業の創出に向けた取り組みなどを進めていくことで、陶町における地域経済の振興を図っていきます。 また、参考となる特定の市町村はございませんが、西濃の有料道路のインター開通のように大きなプロジェクトが市内でありましたら、合わせて企業誘致等を検討することも可能かもしれません。今後も県内をはじめ、県外の事例も確認していく中で、陶町の実情に合った取り組み等を検討していきます。 【農林課】②、③、④ 猿爪地区を中心とした小規模な農地は、ほ場整備がされていないこともあり、主に農地所有者により農地の管理・耕作がされています。引き続き、適正な管理をお願いしたいと思います。 一方で、大川地区・水上地区のほ場整備が実施された集団的な農地は、農振農用地（農業振興地域内農用地）として将来的に守っていくべき農地としています。こうした農地は、営農組合や集落営農を中心に耕作していただいており、構成員の高齢化といった課題は認識していますが、今後も継続して管理していきたいと考えています。営農組織として、県へ補助申請される場合は、支援していきたいと考えています。もし、ほ場整備を検討される場合は、受益者負担金も発生しますが、県への申請等でお手伝いできるかと考えています。地区で話がまとまりましたら、ご連絡ください。 愛知県安城市の情報になりますが、農業をはじめとする産業の振興に寄与することを目的とした「デンパーク」が盛況で、観光客が多く訪れているようです。しかし、開設に至るまでに、土地開発や農地関連の多くの法令による調整や、何よりも、土地地権者を含めた地域の意向や、多くの企業による寄附により開設、運営されているようです。 瑞浪市としましても、デンパークほど敷地の規模は大きくありませんが、農業や観光の振興を目的として、農産物等直売所を整備していますので、今後もより多くの来場者を迎えることができるよう、運営していきたいと考えています。 なお、現在のところ、市または一般企業における過疎化対策を目的とした大規模農園としての再開発といった計画・相談はありません。また、雇用の創出となり得る大規模農園の整備については、県外も含めて、引き続き情報の収集に努めます。 【企画政策課】⑤ 本市では、陶町に限らず人口減少による担い手不足が喫緊の課題となっています。 そのような中、令和6年2月に、令和6年度から令和15年度までの10年間を計画期間とした『第7次瑞浪市総合計画』を策定しました。総合計画は、行政運営の指針となる市の最上位計画にあたります。本市では、人口が減少していく中でも、市の活力を維持・向上させるべく総合計画に位置付けた各種事業を着実に推進し、若者や女性や移住者等、地域人材の育成に努めています。 また、持続可能な地域づくりを実現するため、令和5年度に市内8地区にて『地域計画』が策定されました。『地域計画』とは、「こんな地域で暮らし続けたい将来像」と「わたしたち自身が取り組むこと」を地域で話し合い、行動計画として取りまとめたものです。 陶町の『地域計画』では、将来像を「子どもからお年寄りまで安心して楽しく暮らせる 明るく賑やかで活気のあるまち」とし、5つの10年後の目標・行動計画を位置付けています。 『第7次瑞浪市総合計画』と『地域計画』の両方を推進することで、持続可能な地域づくりに取り組んでまいります。			

地区名	陶地区	番号	3
タイトル	けんこう号と巡回診療車について		
ご意見の内容			
公立東濃中部医療センターが今年度開院するにあたり、陶町としては医療受診について不安があります。それは東濃厚生病院直通バス「けんこう号」と「巡回診療車」がこれまでどおり運行、運営されるかどうか心配です。 東濃厚生病院が運行、運営されているとは思いますが、その辺りの話し合いはどのように進んでいるのでしょうか。陶町としては、公立東濃中部医療センターの開院以降についても、これまでと同様の形態での継続を望んでおります。			
市長の回答	担当課	健康づくり課	
東濃厚生病院が患者さんの送迎用に、陶、日吉、釜戸方面で週1便ずつ運行している「けんこう号」については、その発着地を公立東濃中部医療センターとしたうえで、当医療センターが開院した後も継続するよう協議をしています。 また、陶町と釜戸町に運行している「巡回診療車」についても、公立東濃中部医療センターが開院した後も継続するよう協議をしています。			

地区名	陶地区	番号	4
タイトル	「広報みずなみ」の自治会配布について		
ご意見の内容			
高齢化が進み、自治会が配布している「広報みずなみ」の配布業務の負担になっています。配布業務を業者に委託していただくことは可能ですか。			
市長の回答	担当課	シティプロモーション課	
各自治会で、毎月「広報みずなみ」等の配布業務をしていただいております。負担の大きさは理解しています。現在、自治会による広報配布ではなく、郵送や業者による配布ができないか検討を進めております。			

地区名	陶地区	番号	5
タイトル	就学援助制度について		
ご意見の内容			
民生委員として就学援助制度に携わっています。申請するにあたって、行程が多くあり、場合によっては半年ぐらいかかるのではないかと考えてしまいます。行程が多く、言った言わない、書類を出した出していない、などの問題が出てくるかもしれません。この仕組みで本当に良いのか、と考えて検証はされているのでしょうか。簡素化することはできないのでしょうか。			
市長の回答	担当課	学校教育課	
令和5年度の民生児童委員役員会において、手続きの簡素化についてご意見をいただきました。瑞浪市就学援助支給要綱を再確認したうえで、保護者の手続き及び民生児童委員の皆様からの意見について課内で検討し、喫緊の状況でない場合においては、ご意見をいただくことはないこととし、令和6年度の民生児童委員役員会にてお伝えしました。実際、昨年度の後期からは、書類審査のみで対応しており民生児童委員さんのご意見をいただいた申請はございません。			